
地母神の訪れし山

天月黎壘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

地母神の訪れし山

【NZコード】

N7149K

【作者名】

天月黎璽

【あらすじ】

ジョウタクヨウキョウ
丈 短 褶 氷 玖 大 学 教 授

暁ユギト氏による「地母山」についてのレ

ポート

閲覧可

(前書き)

暁レポート・地図ヨリいつこて 2010・04・04 (5502)

日本のある場所に、「地母山」という山があるらしい。「地母神が訪れ、豊作と多産をもたらす」という伝説が由来だそうだ。

そこはこの国では数少ない原生林の森林地帯であり、今なお、古代の生命が息づいているという。原生林といえば、まさしく貴重な「本当の自然」であり、世界遺産として認定を受ける程のものである。しかし、公に認知されてはいるのは、明確であろう。実は、地母山という名は「隠された名」であり、しかも、その周辺に住む人ですら、その名を知らないという。「ある血筋の者だけが知っている」というのが、有力な説だ。

その者達は、ある決まった時期に地母山へ赴き、そこで何かオカルトティックなことをしているという。どうやら、先に述べた「地母神」に関する儀式らしい。山頂には、その儀式のための祭壇があるという。そして、その儀式は「血の生贋」が必要とされるものであるそうだ。それがどんなものであるのかは分からない。一滴の血の零なのか、「それだけでは済まない」とことなか…

さらに、「こんな話もある。「地母山の森は、歩み、動く森」というものだ。これは、「血筋の者でない者が地母山の森へ踏み込むと、戻つてくることは無い」という話からも分かるように、非常に迷いややすい森であることから来ているようだ。あるいは、本当に森が、木が歩き、動くかもしけないが…

こういったことにより、地母山は公にされることが無いそうだ。また、公に晒そうという者を「血筋の者」達は許さないそうであり、「排除」するそうだ。それがどういったものなのかは、言つまでも無い。地母神は貢物を受け入れると、「口を崇拜する者達へ豊作と多産を与えるのだろう。

一定の周期で現れる、「まるで生きているかの様な雲の塊」、その下に地母山はある、と言わされているそうだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7149k/>

地母神の訪れし山

2010年10月17日03時31分発行